

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）



2024年11月12日

東

上場会社名 福留ハム株式会社 上場取引所  
コード番号 2291 URL 082-278-6161  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 福原 治彦  
問合せ先責任者（役職名） 経営管理本部長（氏名） 梶原 勝 (TEL) 082-278-6161  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	12,312	△2.8	△351	—	△331	—	△344	—
2024年3月期中間期	12,673	4.6	△199	—	△176	—	290	—

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △308百万円(—%) 2024年3月期中間期 158百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△103.21	—
2024年3月期中間期	86.96	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	12,543	2,060	16.4
2024年3月期	13,567	2,369	17.5

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 2,059百万円 2024年3月期 2,368百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00			
2025年3月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,200	0.0	△520	—	△490	—	△520	—	△155.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	3,400,000株	2024年3月期	3,400,000株
2025年3月期中間期	63,252株	2024年3月期	63,232株
2025年3月期中間期	3,336,753株	2024年3月期中間期	3,336,937株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、多くの企業が実施した雇用・所得環境改善効果が徐々に表れたことから景気は緩やかな回復基調となりました。その一方で、継続する国際情勢不安、世界的金融引き締めの中での原材料価格高騰、円安の進行に伴う物価上昇や中国経済の減速リスクなどの影響が懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、原材料費やエネルギーコスト、物流コストなどの上昇が企業収益を圧迫しており、景気の先行き不安からくる消費者の低価格・節約志向は一層厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や人手不足等による労働コストの上昇などの影響により、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、成長戦略構築と収益体質改善を最優先課題と位置づけ、ハムソーセージ、デリカ商品の「競争力の強化」、生産性向上と営業力強化による「生産量・販売量の拡大」、業務改革ならびにシステム化推進による「収益構造改革」、企業理念再構築と組織改編による「組織力強化」の4点に取り組み、収益体質の強化と企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は、123億12百万円(前中間連結会計期間比2.8%減)となりました。利益につきましては、営業損失は3億51百万円(前中間連結会計期間は営業損失1億99百万円)、経常損失は3億31百万円(前中間連結会計期間は経常損失1億76百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は3億44百万円(前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純利益2億90百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、国内の人流とインバウンド消費の回復に伴う業務筋向けのウイナー群の大袋商品が堅調に推移したものの、物価高に起因する消費マインドの低下により消費者の節約志向が一層厳しさを増し、量販店向け主力商品の販売量の落ち込みや値上げの影響により、売上高は減少いたしました。また、利益につきましても、販路の見直しと業務筋などへの販路拡大を推し進めるとともに原価圧縮や生産性向上に努めてまいりましたが、原材料費や労働コストの上昇等により、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は50億14百万円(前中間連結会計期間比10.1%減)、セグメント利益(営業利益)は5百万円(前中間連結会計期間比95.3%減)となりました。

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、輸入牛肉・輸入豚肉が依然として高値で推移していることに加え、国産豚肉においても相場高により販売量が減少し苦戦いたしました。輸入商材の代替品としてホルス切り落としや経産牛などが好調に推移いたしました。また、値ごろ感のある鶏肉へ需要シフトが強まり、鶏肉の販売拡大を図るなど、食肉事業全体の売上高は増加いたしました。利益につきましては、海外輸入商品の仕入コストの高騰や為替の影響により、価格転嫁が十分にできず、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は72億97百万円(前中間連結会計期間比2.9%増)、セグメント損失(営業損失)は65百万円(前中間連結会計期間はセグメント損失(営業損失)16百万円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債、純資産等の状況

##### (資産の部)

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ10億23百万円減少の125億43百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ10億11百万円減少の58億52百万円となりました。主な要因は、現金及び預金6億48百万円と受取手形及び売掛金5億7百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ12百万円減少の66億91百万円となりました。主な要因は、投資有価証券61百万円と建設仮勘定26百万円の増加と建物及び構築物29百万円と機械装置及び運搬具54百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ7億14百万円減少の104億83百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ5億3百万円減少の70億25百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億22百万円、短期借入金1億円、その他流動負債1億58百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億10百万円減少の34億58百万円となりました。主な要因は、長期借入金2億4百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億8百万円減少の20億60百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金36百万円の増加と利益剰余金3億44百万円の減少によるものであります。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億48百万円減少の18億65百万円(前連結会計年度比25.8%減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、1億90百万円(前中間連結会計期間は2億37百万円の資金使用)となりました。主な要因は、減価償却費2億円、売上債権の減少額5億7百万円、棚卸資産の増加額1億3百万円、仕入債務の減少額1億82百万円と税金等調整前中間純損失3億31百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億35百万円(前中間連結会計期間は5億3百万円の資金獲得)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億9百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億22百万円(前中間連結会計期間は1億41百万円の資金使用)となりました。主な要因は、短期借入金の純減少額1億円と長期借入金の返済による支出2億4百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想については、2024年5月14日に公表したものを修正いたしました。詳細は本日別途公表いたしました「2025年3月期第2四半期(中間期)連結累計期間業績予想値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失を計上及び、2期連続となる営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上し、当中間連結会計期間においても重要な営業損失及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当社グループは、当該状況を解消するために、「成長戦略構築」と「収益体質改善」を最重要課題として、以下の4点に取り組んでまいります。

I. ハムソーセージ、デリカ商品の「競争力の強化」

当連結会計年度の下期以降においては、消費者ニーズにマッチしたウインナー新商品の開発強化ならびにハンバーグ他のデリカ商品の商品拡充に努め、消費者から選ばれ続ける商品づくりと新たな価値創造による競争力強化に取り組んでまいります。

II. 生産性向上と営業力強化による「生産量・販売量の拡大」

加工品製造部門と営業部門の製販連携を更に強化し、重点商品を明確にした付加価値の高い商品の生産・販売への集中と拡大に取り組んでまいります。

Ⅲ. 業務改革ならびにシステム化推進による「収益構造改革」

基幹システム刷新による効率化・省力化に取り組みつつ、業務改革として製造原価ならびに販売管理費低減を図り、収益構造を大きく改善してまいります。

Ⅳ. 企業理念再構築と組織改編による「組織力強化」

加工カンパニーとエリアカンパニーの連携強化とセグメント別一気通貫での採算管理をより機能強化させ、採算性向上・収益力改善に努めてまいります。

また、現金及び預金、短期間に資金化可能な投資有価証券、取引金融機関との当座貸越契約の未実行残高等の資金余力を十分確保しております。今後も機動的に資金調達を行っていくことで、当面の間の運転資金及び投資資金が十分に賄える状況にあることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,684	2,035
受取手形及び売掛金	2,925	2,418
商品及び製品	909	995
仕掛品	34	38
原材料及び貯蔵品	301	314
その他	28	52
貸倒引当金	△20	△2
流動資産合計	6,863	5,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,992	1,962
機械装置及び運搬具(純額)	698	644
土地	1,760	1,760
リース資産(純額)	53	48
建設仮勘定	19	46
その他	44	46
有形固定資産合計	4,569	4,510
無形固定資産	79	75
投資その他の資産		
投資有価証券	1,855	1,916
その他	296	295
貸倒引当金	△96	△106
投資その他の資産合計	2,055	2,106
固定資産合計	6,704	6,691
資産合計	13,567	12,543

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,314	2,092
短期借入金	4,253	4,153
未払法人税等	55	29
賞与引当金	153	157
その他	751	592
流動負債合計	7,529	7,025
固定負債		
長期借入金	1,626	1,421
退職給付に係る負債	1,423	1,412
長期未払金	328	328
その他	290	295
固定負債合計	3,669	3,458
負債合計	11,198	10,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△2,301	△2,645
自己株式	△81	△81
株主資本合計	1,812	1,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	542	578
退職給付に係る調整累計額	13	12
その他の包括利益累計額合計	555	591
非支配株主持分	0	0
純資産合計	2,369	2,060
負債純資産合計	13,567	12,543



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	12,673	12,312
売上原価	10,714	10,576
売上総利益	1,959	1,735
販売費及び一般管理費	2,158	2,086
営業損失(△)	△199	△351
営業外収益		
受取利息及び配当金	28	23
その他	45	36
営業外収益合計	73	60
営業外費用		
支払利息	34	33
その他	16	7
営業外費用合計	50	40
経常損失(△)	△176	△331
特別利益		
投資有価証券売却益	535	-
特別利益合計	535	-
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	359	△331
法人税、住民税及び事業税	69	13
法人税等合計	69	13
中間純利益又は中間純損失(△)	290	△344
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	290	△344

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	290	△344
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△134	36
退職給付に係る調整額	3	△0
その他の包括利益合計	△131	35
中間包括利益	158	△308
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	158	△308
非支配株主に係る中間包括利益	0	0

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	359	△331
減価償却費	217	200
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△356	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△8
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	43	△12
受取利息及び受取配当金	△28	△23
支払利息	34	33
投資有価証券売却損益(△は益)	△535	-
売上債権の増減額(△は増加)	△445	507
棚卸資産の増減額(△は増加)	△186	△103
仕入債務の増減額(△は減少)	298	△182
長期未払金の増減額(△は減少)	328	-
その他	59	△226
小計	△209	△147
利息及び配当金の受取額	28	23
利息の支払額	△29	△37
法人税等の支払額	△26	△28
営業活動によるキャッシュ・フロー	△237	△190
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△151	△109
投資有価証券の取得による支出	△7	△8
投資有価証券の売却による収入	660	-
無形固定資産の取得による支出	△5	△8
その他	8	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	503	△135
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	30	△100
長期借入金の返済による支出	△149	△204
リース債務の返済による支出	△22	△17
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△141	△322
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	124	△648
現金及び現金同等物の期首残高	2,149	2,514
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,274	1,865

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,579	7,093	12,673
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,579	7,093	12,673
セグメント利益又は損失(△)	107	△16	90

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	90
全社費用(注)	△290
中間連結損益計算書の営業損失(△)	△199

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,014	7,297	12,312
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,014	7,297	12,312
セグメント利益又は損失(△)	5	△65	△60

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△60
全社費用(注)	△290
中間連結損益計算書の営業損失(△)	△351

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。